

4 現地情報

本年度における農業経営体、地域、農村等の動きや変化を旬の情報として、随時県庁ホームページにて情報提供しています。

農福連携による授粉用花粉づくり作業委託の開始！

～梨産地の花粉確保に向けた体制構築に向けて～

夷隅農業事務所改良普及課 令和7年4月24日発

中国での火傷病発生に伴い令和5年から梨花粉の輸入が停止されたことから、生産者は授粉用花粉を自家採取により確保していく必要があります。そこで今回夷隅農業事務所では、梨産地の花粉確保における労力補完のため、社会福祉法人土穂会ピア宮敷や生産者と連携し、花粉採取における作業内容の事前確認や料金体系の検討などについて支援しました。令和6年度から実施している花蕾採取作業に加え、葯採取、ふるい掛けの作業を行い、問題なく葯を採取できました。生産者からは、「人手のかかる作業を委託でき、時間を有効活用できて助かる。」、社会福祉法人からは、「梨産地の役に立てて嬉しい。」といった声が聞かれ、双方にとって利点のある取組となりました。

今後も農業事務所では、関係機関と密に連携し、梨産地の維持・発展に向け支援を行っていきます。



葯採取作業の様子



ふるい掛け作業の様子

岬梨産地の今後について考えよう！

～安定的な担い手確保と産地の維持拡大に向けて～

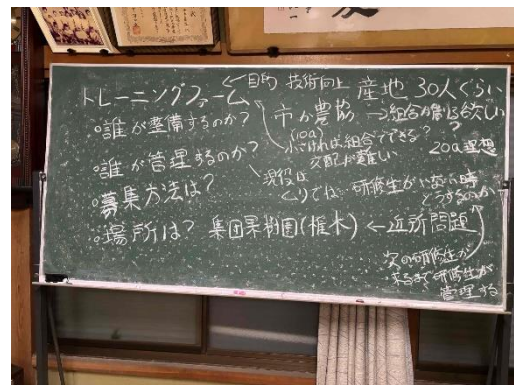
夷隅農業事務所改良普及課 令和7年6月10日発

一宮・岬梨組合岬支部では、生産者の高齢化や生産量の減少により、産地の縮小が続いています。一方で、近年後継者や新規参入者の就農が相次いでおり、新たな担い手の確保が進んでいる産地でもあります。そこで岬支部では、今後の産地を担っていく若手生産者、各地区の中心生産者や関係機関が集い、今後の岬梨産地について討議・検討する「岬梨産地を考える会」を令和4年度末から開催しており、第10回の会議を6月3日に開催しました。今後も産地の縮小が進んでいく中で、産地を維持していくにはどの程度の面積や生産量が必要なのか、労力不足解消にはどのような取組を行うべきなのかなど、産地の将来を考える活発な意見が挙げられました。

今後も夷隅農業事務所では、産地維持に向けた話し合いを継続し解決策を探るとともに、新規就農者の育成・支援を通じた梨産地の維持・発展を目指し、取組を進めていきます。



議論の様子



挙げられた意見

夷隅地域の農業を担う青年農業者が集合！

～令和7年度夷隅農業経営体育成セミナー開講～

夷隅農業事務所改良普及課 令和7年6月17日発

夷隅農業事務所では、農業の担い手の育成を目的に、新規就農者等を対象とした「夷隅農業経営体育成セミナー」を開催しており、5月28日に開講式を行いました。今年度は、基本生5名、専門生6名、総合生4名の計15名のほか、就農を希望する聴講生3名が受講します。当日は、夷隅郡市指導農業士会長、千葉県農業士協会夷隅支部長をはじめ、いすみ市、JAいすみの来賓の方から、祝辞や激励の言葉をいただきました。

開講式終了後は、第1回研修会で「夷隅地域の農業の概要説明」と「VRによる農作業安全研修」を行いました。その後、2班に分かれて情報交換会を行いました。セミナー生からは、「親を超える経営を目指したい。」「就農間もないので、セミナーでいろいろ勉強していきたい。」等の意見が聞かれました。

今後も農業事務所ではセミナーを通じ、関係機関と連携し担い手育成を図っていきます。



夷隅地域を担う青年農業者



情報交換会の様子

夷隅地域の枝物・草花出荷者初集合！

～パンパスグラス現地検討会で意識統一～

夷隅農業事務所改良普及課 令和7年7月18日発

夷隅農業事務所では、令和2年から枝物・草花栽培講座を開催し、小規模から取り組み、省力的かつ獣害にあいにくい枝物・草花4品目を振興してきました。特に早期から栽培が進んでいたパンパスグラスは出荷本数が増えてきています。そこで、出荷開始を1か月後に控えた6月25日に、出荷先市場、JA、生産者が集まり、「いすみのパンパスグラス」ブランド確立へ向けた現地検討会を行いました。

市場からは、装飾への使用例や、既存産地の高齢化により供給量の減少が見込まれ、夷隅地域が高品質な産地として安定出荷できることを期待していることなどの話がありました。このような中心的な生産者が集まる機会は初めてであり、栽培管理や出荷調製技術、販売方法について活発な意見交換が行われ、ブランド化に向けた意識統一が進みました。当事務所では引き続き関係機関と連携し、実需者に信頼される産地育成に取り組めます。



検討会の様子



現地ほ場にて意見交換をしました

ドローンで追肥を省力的に

～水稲の安定生産を目指してスマート農業技術を最大限に活用～

夷隅農業事務所改良普及課 令和7年8月13日発

基盤整備後の水田ほ場では、作土層が変化することにより、生育のバラツキが発生し、収量低下を招く場合があります。そこで、当事務所では7月30日に、省力的・効率的に追肥できる技術を紹介するため、衛星画像によるセンシングデータを基に、ほ場内で水稲の生育状況の違いに合わせて施肥量を調整できる可変追肥ドローンの実演会を勝浦市で開催したところ、農家や市町と農協など関係者32名の参加がありました。

メーカーからドローンの紹介があり、参加者は機械の性能や価格について質問をしていました。当地域では、基盤整備事業を複数地域で実施しています。ドローンでの追肥により、工事後の水田で省力的に早期に安定的に収量を確保できる可能性を共有できました。

今後は、収量コンバインによるほ場内の収量・品質のバラツキの確認や、衛星画像からのセンシングデータを解析するなどし、来年の栽培に生かしていきます。



写真1 追肥（葉面散布）の様子



写真2 ドローンの紹介の様子

もっと知ってみよう！果樹専門講座の設置

～果樹栽培に特化した新規就農者の資質向上に向けて～

夷隅農業事務所改良普及課 令和7年11月7日発

夷隅農業事務所では、管内に「日本なし」を栽培する後継者・新規参加者が多いことから、令和4年度より農業経営体育成セミナーで「果樹（日本なし等）」の専門講座を設置しています。今回は「省力化樹形と育種、土づくり」をテーマとし、国における最新の試験研究成果やメーカーの土づくりへのこだわりと土壌改良の基礎を学ぶため、農研機構果樹茶業研究部門及び土壌改良機械を製造しているスガノ農機株式会社の視察を行い、修了生含め計7名の参加がありました。参加者からは、「省力化樹形について、収量や栽培方法などが聞け参考となった。」「育種の仕組みや品種特性について知ることができた。」「土壌改良機械の仕組みについて、楽しみながら学ぶことができた。」等の感想がありました。

今後も夷隅農業事務所では、新規就農者の育成・支援を通じた産地の維持・発展を目指し、取組を進めていきます。



ほ場視察の様子



プラウを製造する工程を見学する様子

中山間地域での草刈り委託実証試験の取組

～手間のかかる草刈りはアウトソーシング～

夷隅農業事務所改良普及課 令和7年11月10日発

中山間地域の水田は急勾配の法面が多いことから、足場が悪く危険が伴うなど、草刈り作業に多大な労力がかかるため、規模拡大の制限要因となっています。そこで、当事務所では担い手支援課や機械メーカー等と連携し、10月30日に水田法面等の草刈り委託実証試験を行いました。今回の受託者は地元で樹木等の伐採関係の仕事をしており、当日は若者3人で大小さまざまな法面の草を刈っていきました。農家からは、「委託できれば他の作業に時間をさけるのでありがたい」、受託者からは「無理なく取り組めそうなので、閑散期の夏場の仕事として今後も続けていきたい」と感想がありました。また、ラジコン草刈機は斜度45度の法面で、1m越えの雑草を優に刈っていきました。

当事務所では、今回の実証試験の検証を行い、中山間地域での稲作経営の維持・発展を目指していきます。



ラジコン草刈機の様子



刈払い機での作業の様子

枝物・草花出荷者の初視察！市場&フローリストから高まる期待

～流通・販売の仕組みを学び、実需者のニーズを捉えよう～

夷隅農業事務所改良普及課 令和7年12月1日発

夷隅農業事務所では産地育成を目指し、枝物・草花4品目を推奨してきました。特に早期から取り組んだパンパスグラスは本格出荷3年目となり、出荷量が増えてきました。流通・販売の仕組みや商材としてのニーズを把握することを目的として、パンパスグラスの最終販売日である10月20日に、大田市場及び都内生花店へ視察研修会を行いました。枝物・草花の出荷者が視察を行うのは今回が初めてでした。市場やフローリストから今期の品質の評価や今後への期待を直接聞くことができました。

参加者からは、「出荷した後の流れについて学ぶことが出来て、理解が深まった」、「パンパスグラスのいすみブランド確立を目指していきたい」、「品質向上を徹底するという気持ちを維持していきたい」等の感想がありました。

今後も当事務所では枝物・草花産地の振興を目指し、様々な取組を行っていきます。



大田市場花き棟視察



市場関係者等との意見交換

有機栽培米「いすみっこ」の食味試験を実施！

～「コシヒカリ」に代わる高温耐性良食味品種「にじのきらめき」の導入を目指して～

夷隅農業事務所改良普及課 令和7年12月10日発

いすみ市では、化学合成農薬・化学肥料不使用の「コシヒカリ」である「いすみっこ」の生産量拡大を目指していますが、近年の夏場の高温による「コシヒカリ」の収量・品質低下が問題となっており、対策が求められています。夷隅農業事務所では、「コシヒカリ」に代わる高温に強く良食味な品種「にじのきらめき」の有機栽培での試作を提案し、10月22日開催の「いすみっこ」栽培反省会（参加者28名）にて、食べ比べを行いました。

「にじのきらめき」の試作の結果、「コシヒカリ」よりも品質が良く、10a当たり100kg程度増収し、担当農家からは「草丈が低くて倒れにくいので、安心して作れた。」と好評でした。食べ比べを行った結果、「にじのきらめき」は、「コシヒカリ」よりも炊いたお米に艶があり、粘りが強いことから、「美味しかった！」と参加者からも高評価でした。

農業事務所では引き続き、市と連携して「いすみっこ」の課題解決を進めていきます。



収穫間近の「にじのきらめき」



食べ比べ（食味官能試験）の説明の様子

先輩生産者の想いを紡いで

～他県からの新規参入と第三者継承～

夷隅農業事務所改良普及課 令和8年2月10日発

一宮・岬梨組合岬支部では近年新規就農が相次いでおり、ここ10年間で11名の新規就農者が新たな仲間になりました。そのうち2名は新規参入者で、全く別の仕事から梨農家に転身しています。

令和7年8月、新たに石川県から就農希望者が現れ、令和7年末で廃業予定であった生産者のほ場や施設、機械などを譲り受け、第三者継承の形で新規参入する運びとなりました。果樹は永年作物である特性上、未収益期間があるため、他の品目と比較し新規参入のハードルが高いです。一方で、廃業する生産者から経営丸ごと第三者継承を行うことができれば初期投資を大幅に削減でき、かつ就農時からすぐに収入を得ることができます。

今後も夷隅農業事務所では、多様な手段を用いた新規就農者の確保・育成を通じ、梨産地の維持・発展を目指して取組を進めていきます。



写真 新規参入者

過去10年の新規就農状況推移（累積）

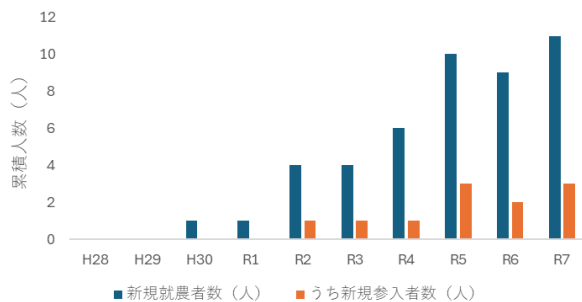


図 梨における新規就農状況推移